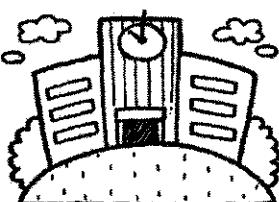
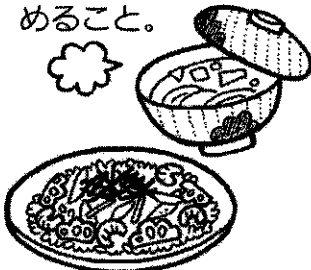
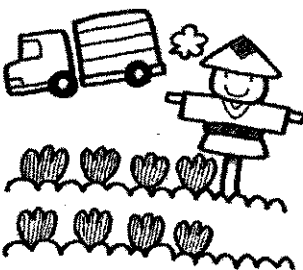
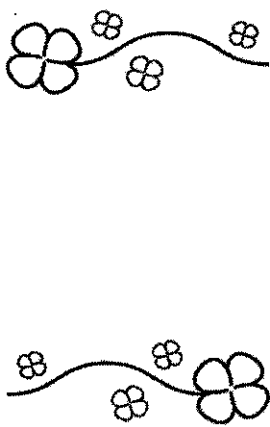


1 はじまり

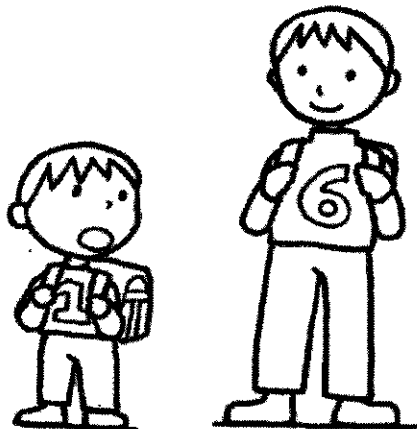
明治22年、山形県鶴岡市の私立忠愛小学校で、貧困児童を対象に行われたのが学校給食のはじまりといわれています。餓死をしてしまうような深刻な不況が続き、貧しい人々も多かったため、給食の提供が行われていたのです。戦後、児童・生徒の栄養補給を目的として再開されました。その後子どもたちの心身の健全な発達に教育上の役割が認められ、教育活動の一環として学校給食は定着しました。

2 学校給食の目標

学校給食の7つの目標

①適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ること。 	②日常生活における食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、及び望ましい食習慣を養うこと。 	③学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養うこと。 	④食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることについての理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと。
⑤食生活が食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについての理解を深め、勤労を重んずる態度を養うこと。 	⑥我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めること。 	⑦食料の生産、流通及び消費について、正しい理解に導くこと。 	

3 学校給食の栄養



1年生と6年生をくらべて見たことがありますか？

小さくて可愛い1年生が大きくたくましい6年生に成長します。成長の盛んな時期です。

特にバランスのとれた食生活が大切です。学校給食では、子どもたちが1日に必要な栄養量のおよそ1/3をとるようになっています。

家庭でとりにくいカルシウムは必要量の約1/2がとれるようになっています。（幼児・児童・生徒1人1回当たりの平均所要栄養量の基準を参照）